
報 告

教育 GP 「高齢社会を担う地域育成型歯学教育」第 1 報

— 高齢者交流学习による教育効果 —

日野出 大輔, 伊賀 弘起*, 中野 雅徳**, 河野 文昭***, 吉本 勝彦****

キーワード: 高齢社会, 地域育成, 歯学教育, 交流学习, 教育効果

The First Report of Good Practice for Education Program "Dental Education Program with Community-Rearing for Aged Society"

— Educational Effect of the Collaborative Learning with Aged People —

Daisuke HINODE, Hiroki IGA*, Masanori NAKANO**, Humiaki KAWANO***, Katsuhiko YOSHIMOTO****

緒 言

近年, 急速に高齢化する社会の中で, 健康な歯・口腔の保持増進が全身の健康につながり, 高齢者の生活を豊かにすることが重要視されつつある。このような高齢社会を担う歯科医療系学生として, 高齢者への身体的・精神的特徴の理解やコミュニケーション能力に優れた人材の育成が求められている。現在, 徳島大学歯学部では平成20年度の文部科学省・質の高い大学教育推進プログラム(教育 GP)に採択された取り組み「高齢社会を担う地域育成型歯学教育」を継続して推進している。本取り組みの目的は徳島大学歯学部口腔保健学科および歯科学科学生に対して, 入学早期からの学内授業での気づきを学外体験学習での高齢者との交流に繋げて, 医療人としての自覚と人間力の向上をめざすプログラムを確立し, 正規授業として導入することである(図1および表1参照)。特に, 本取り組みの最も重要な学外体験学習として, 初年次から社会の求める医療人育成のために「人間力の向上」を一般目標とする「高齢者交流学习」を行っている。今回, 平成20年度に実施した同授業の教育効果について考察したので報告する。

対象および方法

本取り組みの分析対象者は, 徳島大学歯学部1年生22名(口腔保健学科16名, 歯学科6名)である。ホスピタリティ・マインドを体得し, 学生・高齢者双方の役立ち感を育むことを期待して, 1日3時間, 計8回にわたり, 徳島市内の養護老人ホームに入所している高齢者との1対1の交流を行った(図2)。交流前には, 同施設長である住職より, 「生と死」「老い」に関する特別講義を受けた。また, 4回目の交流後および最終回の交流後にふり返り授業を実施した。

交流学习での教育効果に関しては, 毎回の学習記録とともに交流に関する自己評価を10点満点で記載させた。また, 徳島大学医学部での取り組み評価¹⁾を参考に, 交流学习終了後「自己の成長したことベスト3」を自由に記載してもらい, 本取り組みを通じた自己の変化をとらえる試みを行った。尚, 教育効果に関する学生へのアンケート調査等は倫理的に十分配慮した上で実施した。

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

口腔保健衛生学分野, *口腔保健教育学分野, **口腔機能福祉学分野, ***総合診療歯科学分野, ****分子薬理学分野
Department of Hygiene and Oral Health Science, Oral Health Care Education*, Functional Oral Care and Welfare**,
Comprehensive Dentistry***, Department of Medical Pharmacology****, Institute of Health Biosciences, The University of
Tokushima Graduate School



図1 教育 GP「高齢社会を担う地域育成型歯学教育」取り組みの概要

表1 「高齢社会を担う地域育成型歯学教育」教育目標

一般目標

1. 人間力を向上させる。
2. 医療人を志すものとしての自覚を持つ。

到達目標

1. 基本的マナーを守る。
2. コミュニケーション力を養う。
3. ホスピタリティ・マインドをもって対応する。
4. 相手を受容して適切に行動する。
5. 口腔保健・福祉を原点とした地域貢献のあり方を述べる。
6. QOL向上における歯科専門職としての役割を説明する。



図2 養護老人ホームでの交流の様子

(点数)

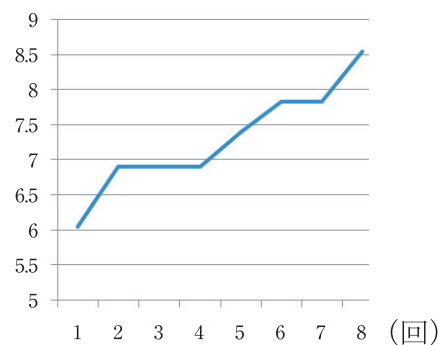


図3 自己評価点数の推移

結果および考察

交流を重ねるごとに「心が温まる会話でした」「自然と心が穏やかになれる」「とても素晴らしいなあと感じた」など、学生自身の心に深く感じたと思われる表現が学習記録に多く認められた。また、高齢者交流学習

の自己評価点数の平均点も初回6.0点であったが、交流毎に徐々に上昇し、最終回には8.5点となった(図3)。一方、「成長したことベスト3」の回答から、表1に示す一般目標のうち、「人間力の向上」に対する4つの到達目標、①基本的マナーを守る、②コミュニケーション

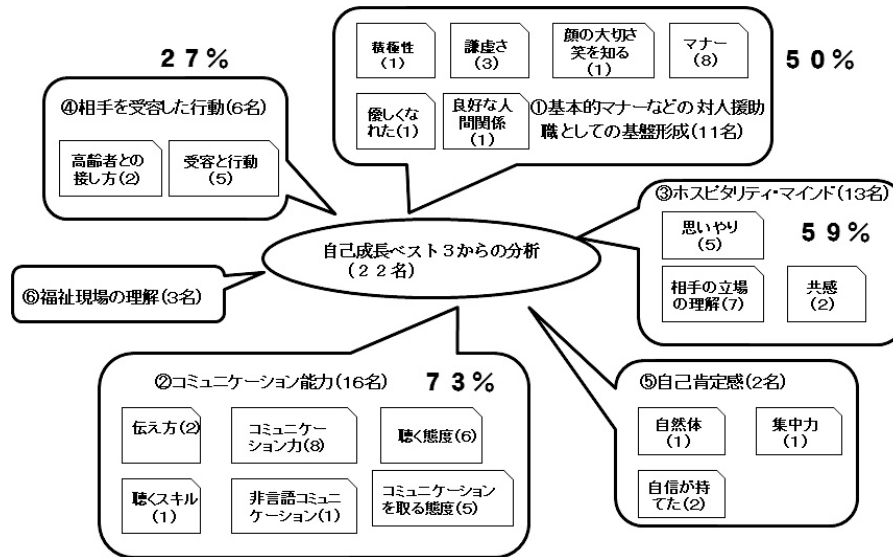


図4 「成長したことベスト3」アンケートからの分析

力を養う，③ホスピタリティ・マインドをもって対応する，④相手を受容して適切に行動する，について調べた。その結果，図4に示すように「マナー」や「謙虚さ」などの①にかかわる内容を半数の学生が記載していた。②に関しては「コミュニケーション力」に加え，「聞く態度」や「伝え方」などがあり，73%と最も多かった。③に関しては59%の学生に「相手の立場の理解」や「思いやり」などの記載が認められ，④に関する内容を記載したのも27%あった。このように，すべての到達目標に沿った回答が参加学生から得られた。また，その他にも自己肯定感や福祉現場に対する理解に関する記載が認められた。

一方，交流学习を体験した学生は，2年次には高齢者福祉施設等の利用者に対する口腔機能向上プログラム「お口の健康長寿教室」に参加する（図1参照）。これは歯科医師による講話の後，歯科衛生士教員が行う口腔機能訓練などを参加学生が補助しつつ，学生自らも舌体操などを実施して，高齢者のQOL向上における歯科専門職としての役割を学ぶものである。本報告では示していないが，平成20年度に参加した学生の学習レポートから，多くの学生が口腔保健の重要性和介護予防の果たす役割を理解できたことが示されている。「高齢者交流学习」での体験によって得られたコミュニケーション力を養うなどの到達目標内容が「お口の健康長寿教室」において活かされ，表2に示す「医療人としての自覚」という一般目標をみざす授業となるか，引き続き検証していく予定である。

昨年度までに，「気づきの体験学習」を口腔保健学科の正規授業科目であるコミュニケーション論授業へ，「高齢者交流学习」および「お口の健康長寿教室」を早期臨床実習へ組み入れることができたが，今後の課題と

して，これらのプログラムを歯学科の正規授業として組み込む方法について，現在検討を重ねている。

まとめ

徳島大学歯学部1生を対象に養護老人ホームにおいて，高齢者との1対1の交流から，コミュニケーション力を養うことなどを期待する「高齢者交流学习」を実施した。交流後の学習記録に認められる「心に深く感じた」内容や自己評価点数の上昇，更には4つの到達目標に沿った表現の記載が参加学生から認められたことから，1年次に実施した本取り組みは「人間力の向上」という一般目標に適した有効な教育カリキュラムであると考えられた。

謝辞

本取り組みを実施するにあたり，ご協力いただいた「白寿園」施設関係者の方々に厚くお礼申し上げます。また，本取り組みに協力していただいている徳島大学歯学部関係者に深謝いたします。

尚，現在進行中の本取り組み内容は徳島大学歯学部ホームページ <http://www.dent.tokushima-u.ac.jp/>にて紹介しています。

引用文献

- 1) 長宗雅美，寺嶋吉保，小野香代子，山田進一，黒葛原健太郎，安井夏生，高塚人志：現代GP「医療系学生の保育所実習による子育て支援」－乳幼児との継続交流による体験型コミュニケーション授業実施報告と終了時の評価，大学教育研究ジャーナル5：105-115，2008。